

NO. 1

1993. 1



岩戸山古墳の石人：福岡県八女市吉田にある前方後円墳（全長135m、後円部径60m、前方部幅92m）を守っている。

も く じ

○NETWORK・ネットワーク	2
・昔の大名の領土経営と現代の市長さんの地域経営	2
・第3セクターの課題と事業活動	3
・地域老人保健福祉計画と高齢化社会への取り組み	5
○見・聞・食	8
・岩戸山古墳の石人	8
・北九州都市景観—小倉駅北口開発プロジェクト—	9
・着々と進行 福岡ドーム建設	10
・手づくりもつ鍋	11
○近 況	13
・公共賃貸住宅の総合的な建替え計画づくり	13
・伊万里市大川農業まつり	14
・間近に見た大相撲の迫力	15
・木製コースター「ジュピター」	16
○本・BOOKS 「ヘリオット先生奮戦記」（上下）	18

昔の大名の領土経営と 現代の市長さんの地域経営

●織田信長が現代の市長だったら、どんな市域経営やまちづくりをするのだろうかということを想像してみたい。

仕事から、町長さんや市長さんとお会いする機会が多いが、最近でも“工場誘致第一主義”をとって、工業団地づくりに力を入れておられる方が多いのに驚かされる。

工業団地が地域経営施策の重点になるのは、インフラストラクチャーの整備ということだと考えられるが、工場誘致のための工業団地（用地）づくりは、産業振興のためのハードなインフラ整備ということになる。

●インフラストラクチャーの定義を考えてみると、①狭義では公共投資による道路などのハード施設をさし、②一般的には公共・民間による社会基盤機能をさし、道路とその活用のための交通法規やモラル、学校と教育制度、病院と治療システム・保険制度など、社会的な生活・生産基盤をさすが、基盤を機能させる制度上のシステムは軽視されがちである。③また、欧米の

論文などを見ると、財政・徴税制度、司法・警察制度、金融制度などの「政府というインフラストラクチャー」といった言葉で表されるような広い意味をもっていることがわかる。どちらかという、社会を機能させる基本的なシステムがインフラで、そのための施設＝モノはその一部として位置づけられているようである。

●日本は近代化の優等生ということになっているが、それは明治の人々＝我々の祖先の血のにじむような努力によってなされたインフラ整備によっている。現代のわれわれの豊かな暮らしは、先達の娘を売るような心の苦しみや、きびしい労働の汗によってもたらされたものである。

その明治期のインフラ（公共投資）は、租税制度、教育制度（とくに、このインフラが日本の発展を大きく支えたものとして世界の注目を集めている）、郵便・電信制度、港湾・鉄道・道路整備、治水事業、農地開拓などで、これらの上に日本の近代化が進められた。これを見てもわかるように、現代のわれわれに豊かさをもた

らした基盤は、かなりソフトなシステム重視であったことがわかる。

これらと比べると、現代の日本の、公共投資が何百兆円とか、地方での道路や市民会館などといったモノに偏した施策は、明治時代よりハードに片寄っているように思える。音楽ホールを作るのは悪いことではないが、それを支えるソフトシステムとなる運営のためのボランティアグループや、ホールを活用する地域の活動（アクティビティ）をもっと先行させる考えが必要だと考えられる。

●信長の楽市楽座はソフトインフラであったということを言いたいために、いろいろインフラことを書いてきた。楽市楽座のことに話を戻したい。楽市については、「楽市令の条項から楽市場の機能をみると」と百科事典でも書かれている。つまり「機能」というソフトインフラが、地域振興のカギだということを、信長は直感によって知っていたのかも知れない。

楽市令の中味をみると、①大名権力から守るという不入権、②市場内の暴力行為の禁止、③通行の安全保証、④免税、⑤営業行為の自由を保証する楽座など、「場」というハードを設けたことはもちろんであるが、重要な役割を果たし

たのはソフトなシステムであったことがわかる。

21世紀をめざす地域づくりのキーワードは、「ソフトインフラストラクチャーの整備」ではないかということが、封建大名の領国経営を見てもわかるように思う。そのソフトインフラの内容については次号に述べてみたい。(糸乗貞喜)

第3セクターの課題と事業活動

—九州北部学術研究都市整備構想—

○九州北部学術研究都市整備構想とは

昭和62年度から始まった「九州北部学術研究都市整備構想（当時は北部九州研究学園都市）」は、平成4年度の構想推進会議の設立によって、いよいよ実現に向けた段階を迎えた。

この構想は、ネットワーク型の整備を基本として、各拠点地域（当面は北九州から佐賀までの7か所）が切磋琢磨しながら、地域間の競争と連携によって、地域の土地柄、特色をさらに強化して、オール九州、アジアへ向けたコト起こしの情報発信地域になろうとするものである。したがって各地域が主体的に地域の知的インフ

ラ整備を行うことが求められ、現在、佐賀地域や宗像地域をはじめとして各拠点地域がその取り組みを始めている。

○コト起こしの核づくり

各拠点地域のコト起こし（創造的文化・学術研究活動さらに、そのための基盤づくり）を進めていく上で必要なのは、これらの活動の核となる組織であり、これは、九州北部学研の中核的なセンターだけでなく、各拠点地域においても同様な組織づくりが求められる。それは、各地がそれぞれ特色を持つことが、九州北部全体の多様な特色づくりにつながることを意味している。

この核づくりを実際に行うとすると、行政だけでなく、いわゆる産学官の協力が必要であり、第3セクター的な組織づくりが求められる。

○核づくりのポイント

核づくりの勉強会として、第1回目の推進会議拠点市担当者研究会において、三菱地所^(株)の越谷調査役、^(株)けいはんなの徳永リエゾンオフィサー室次長に講演をお願いした。越谷調査役は、これまでの都市開発事業の経験を踏まえて、全国画一の法的な規制に対し、地域に応じた運用の実現のための産官による協力、金利を

十分に考慮した効率的な事業運営、縦割行政の窓口の統括、そして組織の機動性と融通性など、行政と民間が関わる組織運営のあり方について重要なポイントを指摘された。

一方、すでに発足している関西文化学術研究都市の文化学術研究交流施設の設置運営を行う「^(株)けいはんな」のリエゾンオフィサー（仏語で連絡将校という意味だそうだ）室の徳永次長（三井物産からの出向）は、施設の完成以前から、様々な事業活動を早くから実施していること、今後は地域の人々との交流、関わりを重視し、地域の文化活動のコアとなること、また、これからの研究においては、自前でやっていた時代からの混合型の研究スタイル（業際、学際、国際など）が重要なポイントとなることを指摘された。

今後、この九州北部学研構想の推進において進められる各拠点地域やゾーン全体の核づくりにおいて、大変参考になる話であった。（山辺真一）

地域老人保健福祉計画と高齢化社会への取り組み

服部メディカル研究所
所長 服部 万里子

〈高齢化社会とは少子社会〉

高齢化社会とは先進国に共通な課題であり、“国民生活白書”を見るまでもなく、少子社会であり、長寿社会である。このような社会の変化に対して経済界や行政が直接的に対応するのは〈生産人口の減少による経済力の低下対策〉であり、かつ〈高齢者に対する介護負担対策〉である。しかしこれらは、あくまでも「問題対策型」の対応であり、本来は新しい社会としての“高齢化社会”に対して経済的側面だけではなく、国民生活の豊かさや社会の方向などの総合的な捕らえ返しであろう。

最近では、高齢化社会に対する様々な対応が、私たちはどうするのか？との問いかけへと変わってきている。

厚生省が高齢化社会への取り組みを「十か年戦略」として公表したのは1989年末であり、ゴールドプランとして平成11年までの目標を数字であらわした。

当初はその目標数字だけで取り沙汰されていたが、この戦略目標に基づき「戦略実現のための資金」と「戦略実現のための組織」づくりが着々と進められてきたのである。

そして一昨年には全国3300市町村に対する〈老人保健福祉計画策定〉が指示され、現在、市町村ではその計画策定のための取り組みが開始されている。

今回の計画策定は各市町村段階のものと、それを調整する都道府県段階のものと二段階があり、大きな市町村では独自予算も含めて策定資金を投入している。

現在では、N総研とS総研がこの計画策定について1年以上前からプロジェクトチームを作り地域調査のコンピューター化を行い、市町村への営業を展開している。M総研ではこの策定と計画実行にあたり、大々的な営業を開始している。

〈地域密着、個別ニーズ対応型のGプランを〉

シルバービジネスはその個々の業種や内容にかかわらず、すぐれて地域密着型で個別ニーズ対応型のビジネスであり、厚生省のシルバーサービス振興会による総論的「育成」から、各論的実践の時代に入るためには、この地域保健

福祉計画策定にどのようにかかわっていくのが今日的な課題である。通称“Gプラン”に対する各企業やコンサルティング会社の取り組みは一つのビジネスチャンスとしてだけではなく、地域に対応した地域参画型のユニークで実践的な計画策定とそのプロセスそのものが地域活性化につながるような取り組みにしなければならないと考える。

日本の高齢化社会は地域間格差の拡大社会であり、海外や国内の先進事例からの選択的な模倣はあっても文化、歴史、人の価値観など個別地域性が決定的な要素である。この地域保健福祉計画はその意味で“高齢化社会に対する人づくり”である。

1. 老人地域保健福祉計画とは何か？

厚生省が各都道府県と各市町村に対して平成5年度までにそれぞれの地域における老人保健福祉計画を策定し、それを5～7年間で実践するようにとの指示を出した。

この計画は各地域（市町村や都道府県）ごとに老人に対する実態調査とニーズ調査を実施し、地域の老人介護についての必要量を算出し、それに対して厚生省の“保健福祉10か年戦略”（ゴールドプラン＝通称Gプラン）の目標数

値を地域で何をどのように作り出していくのかについて計画策定を行うものである。

そのための介護量の評価基準や調査の進め方、目標数値の算出方法に関して厚生省では、①ガイドラインの策定、②マニュアルの策定、③都道府県、保健所、福祉事務所の職員研修、④市町村の教員研修、等を実施してきている。

2. 老人保健福祉計画ガイドライン

厚生省が大蔵省、自治省と調整して1989年（平成元年）12月に打ち出した高齢者保健福祉十か年戦略がそれである。

（十か年戦略＝ゴールドプランの骨子）

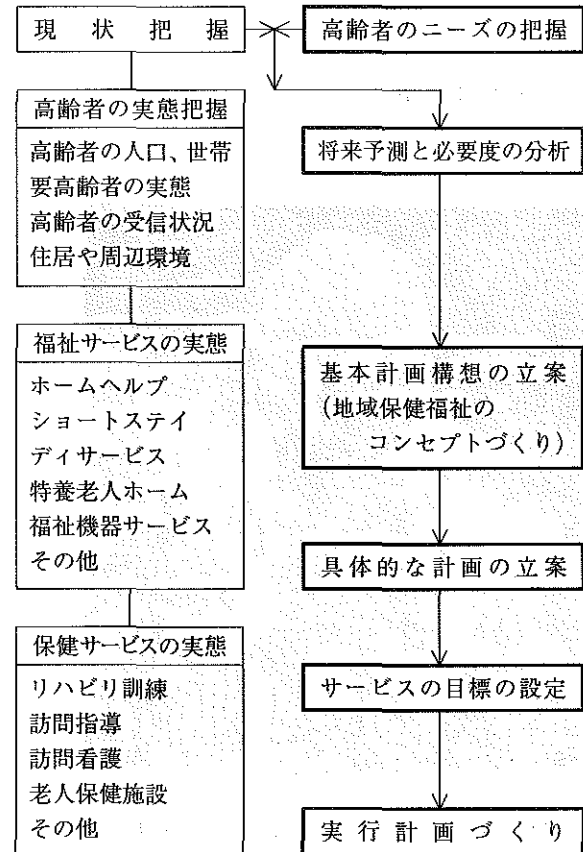
- ①市町村での在宅福祉整備
- ②ねたきり老人ゼロ作戦
- ③長寿社会福祉基金の設置
- ④施設整備十か年計画
- ⑤高齢者の生きがい対策
- ⑥長寿科学研究
- ⑦総合的な施設整備

この戦略に基づき、長寿社会開発センターが設置され、③の資金が具体化され、⑤の対策に乗り出し各都道府県に長寿社会推進機構が設置されている。⑥については愛知県に平成5年に国立の老年病研究センターがオープン予定であ

る。①と④については、ゴールドプランの目標に沿った整備が具体化され、すでに老人保健施設が500か所以上、在宅介護支援センターが700か所以上開設されている。遅れているケアハウスも平成元年4施設、2年10施設、3年37施設、4年30施設と整備され、今後はさらに医療法の改定と共に誘導策が進められている。⑦健康長寿の町づくりについては民間WAC（健康と長寿のまちづくり）の奈良ニッセイエデンの園以外の具体化が遅れており、その政策内容の一部変更が検討されている。

3. 地域老人保健福祉計画策定の進め方

この計画策定は、今後平成11年までの各市町村の具体的な保健・福祉・医療・住宅などの高齢者の社会生活支援目標を明確化し、さらに実践していく計画である。従って市町村全体の他の地域計画や諸課題との統合性や一貫性をもたせること、その地域の独自の要素を最大限生かすこと、厚生省のガイドラインの地域版ではない地場主義に徹していくことが大切である。その地域は同じ人口であっても都市周辺地域か農村、漁村、山岳地域か、雪国か平野か海岸地域かなどの自然条件や企業の参入状況、産業の特質、住民の意識状況、交通状況、歴史的な変

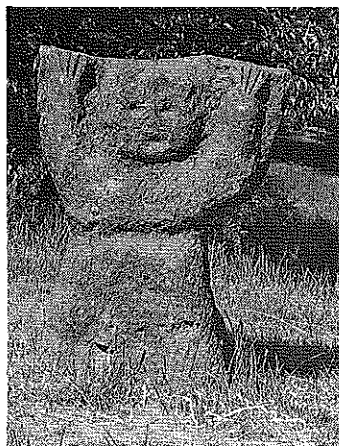


遷などのあらゆる意味で個別性と地位的特質をもっている。これらを地位の資源として生かすか、行政の計算上から無視するか、他の市町村のまねをするか等は計画策定メンバーの資質にかかっていると見えよう。

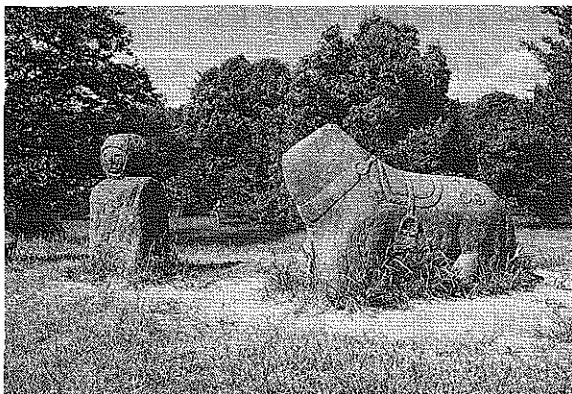
岩戸山古墳の石人



岩戸山古墳の石人を見ると、すぐ抱きつきたくなってしまう。ここに最初に訪れたのは10年ほど前で、「朝鮮の任那に向かう6万の大和朝廷軍を迎えて反乱を起こした」その主の大古墳だということ（ひょっとすると任那と磐井は親藩だったのかもしれない？）で、どんなところで、どれくらいの規模のものがあるのかという興味をもっていた。つまり河内や奈良の古墳との比



較という興味であった。ところが、石人の表情やあたりの佇まいがすっかり気に入ってしまっ、以来何度も訪れることになったし、私にヤイヤイ言われて訪れさせられる被害者も多数発生した。以下に八女市教育委員会の説明を引用する。



「この古墳は筑紫国造“磐井”の墓と伝えられている。日本書記によれば継体天皇21年(527)6月任那にむかう官軍6万をさえぎって叛乱を起こして北九州の兵力を動員し翌22年11月久留米市付近で交戦して破れるまで勢威を振った。筑後風土記には“磐井”の墓に関する大きさ、石製装飾品の入れる状況などが記されているが本古墳と照合できるところが多く、“磐井”の墓と断定されるにいたった。築造年代と被葬者がわかる点で研究上貴重な古墳である。」(糸乗貞喜)

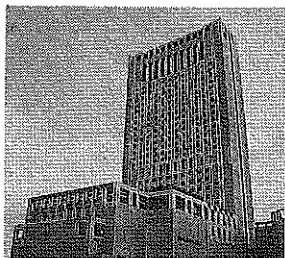
北九州都市景観

—小倉駅北口開発プロジェクト—

今、100万都市の北九州市では「鉄の都」のイメージを一新すべくさまざまな開発プロジェクトが進められている。その中でも新幹線の停車駅でもある小倉駅の北口地区では、百万都市としての玄関口にふさわしい洗練された空間として変貌を遂げようとしている。

同市が掲げる「北九州市ルネッサンス構想」で、同地区を「国際コンベンションゾーン」を中心とした都市形成を図る地区と位置づけており、タコマ通りに面した磯崎新氏設計の国際会議場や西日本総合展示場等が文化交流の先駆けとしての役割を担っている。この他にもフェスティバルセンター、国際総合流通センター等の事業が着々と進められている。

このように小倉駅北口地区の景観が変わっていく中で一際目を見張るものが地上132mの九州一の高さを誇る超高層ビル「リーガロイヤルホテル小倉」である。平成5年4月オープンの手筈ではほぼ工事は終えており、その様相はまさに北九州市のシンボルとしてふさわしい。遠く



は門司港や対岸の下関市からもその姿を眺めることができる。

重化学工業地帯の煙突にとってかわるこの白壁のランドマークは「鉄の都」のイメージを変えていくものとして他の開発プロジェクトと同様、注目すべき新しい景観となるであろう。(宮原真一)

着々と進行 福岡ドーム建設

○2万人を超えるドーム見学

皆様ご存知のとおり、来年の4月オープンをめざし、日本初の開閉式ドーム「福岡ドーム」が福岡市のシーサイドももちに建設中です。

去る9月30日、この福岡ドームの見学会に行ってきました。今年2月から始まったドーム見学は、人々の関心も高く11月で2万人を超えたそうです。

○ドームの屋根は1万2千トン

見学の最初は、建設中のドーム近くにある小型の簡易ドームのPRルームの中で模型やビデオを使い、ドームの構造、屋根の開閉の仕方、超豪華観覧室の内容等を勉強します。それから、ヘルメットを着用してドームへと向かいます。

開閉式と聞いて、屋根の真ん中がぱっかりと開くものと思っていたら、そうではなくて、扇型の変形の屋根が三枚あり、一枚は固定、二枚が横にスライドして固定した屋根の中に納まるというしくみになっています。屋根の重さは1万2千トン、どのくらい重いのかは想像もつきませんが、その重い屋根の真ん中の先端部分を支えるものはありません。そのため、屋根を動かすレールを支える回りの壁がその支えとなり、そこに均等に重さがかかるようにドームは真円になっています。

見学当日は、ちょうど先端部分の工事が行われており、その時はクレーン車で先端を支え作業が進められていましたが、ドーム内の観客席から屋根を見上げたときは大変な迫力でした。

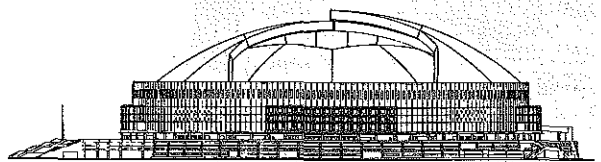
○多目的なドームの利用

ドームは野球だけではなく、アメフトなどのスポーツはもちろん、コンサートや展示会・見

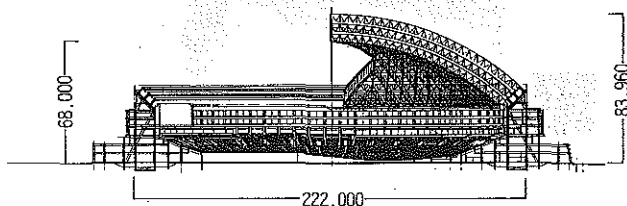
本市などにも利用される予定です。ドームの周囲の幅20m程のスペースは事故の際の一時避難場所になるそうですが、そこには売店等が入り、ドーム内のイベントがない時でも一般に開放されるそうです。ここから眺める博多湾は大変美しく海の中道を眺めながらのジョギング、散歩等は気持ちの良いものでしょう。

現在はすでに屋根の骨組み建設も終わり、先端部を支えていた巨大クレーンもはずされたそうです。

外から見る巨大なコンクリートの建物は異様な感じもしますが、どんなものでもつくれる人間てすごいと思います。(歌丸星子)



■立面図



■断面図

(福岡ドーム パンフレットから)

手づくりもつ鍋

「もつ鍋」と言えば、今や知らない人はいないというくらいにポピュラーな食べ物になっていますが、私が初めて「もつ鍋」を食べた6年前は「もつ鍋」専門店もそれ程多くはなく、「もつ」も専門店でしか手に入らないものでした。

それが今では、一言に「もつ鍋」と言ってもスタイルは様々で、昔ながらの趣の店から、店内にジャズが流れるお洒落な店まであり、味付けもしょうゆ、みそ、しゃぶしゃぶ風などいろいろ楽しめるようになっています。「もつ」もどこの肉屋さんをのぞいても見られるようになり、その横にはもつ鍋専用スープまで登場しています。それに、もつ鍋専門店に行かなくても、居酒屋や屋台のメニューの1つになっているので、どこでも食べられるようになっています。

「もつ鍋」のよさと言えば、安くて栄養があるということ、ワイワイ騒ぎながら食べられる気軽さ、それと見た目とちがいがカロリーが低いということでしょうか。外でいろんな雰囲気や

味を楽しむのもいいですが、自分で「もつ」の
おいしい店を見つけ、味付けをして自宅で気の
合う友達とワイワイ騒ぎながら食べる「もつ
鍋」が私は一番好きです。そこで私流ですが、
簡単にできる「もつ鍋」を紹介します。(私の場
合、もつ、ちゃんぽんは買う店が決まっていま
す。)

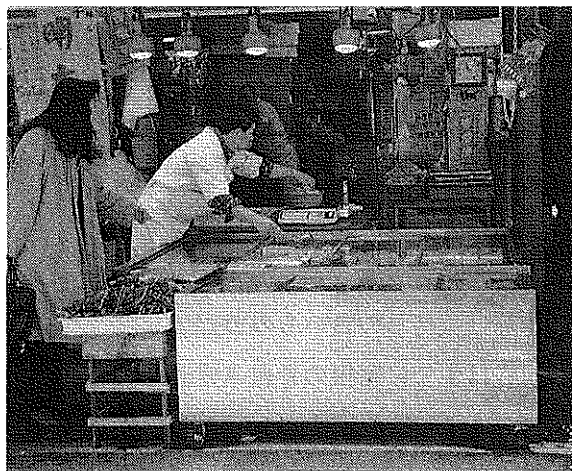
●材料 もつ (一度冷凍してあるものはダメ)、
ニラ、キャベツ、チャンポン、ニンニク、唐辛
子、醤油、酒、みりん

●作り方

- ①最初にもつをよく洗い、よく水切りをする。
- ②酒でもつをにいて臭みを取り、そこへ醤油、み
りん、ニンニクを入れて煮る。
- ③もつが煮えたらキャベツ、ニラの順に入れ最
後に唐辛子をいれて出来上がり。

そしてお腹がいっぱいでもチャンポンは最後
にかならず食べます。

これから鍋の季節です。これだ!という「も
つ」を見つけて、自分流の「もつ鍋」を作っ
てみてはいかがでしょう。(大石陽子)



公共賃貸住宅の総合的な建替え計画づくり
—再生マスタープランについて—

○福岡県で耐用年数1/2以上経過している公営住宅は既に4割以上

昨年、小郡市で国の補助事業である「公共賃貸再生マスタープラン」という市町村全体の総合的な建替え計画のお手伝いをさせていただき、建替えマスタープランの必要性と事業実施のための課題など考えさせられる点があったので、ここに述べさせて頂きたいと思えます。

公営住宅は戦後、戦災者、引き揚者に対する住宅確保のために建設されたことに発して、現在まで福祉住宅としての役割を担ってきました。

福岡県においても現在、市町村営、県営合わせて約115,000戸のストックがあり、このうち耐用年数が1/2以上を超えている公営住宅が約49,000戸の4割以上を占めています。このうち昭和20年～30年代に建てられた木造の公営住宅は早急に建替えが必要であると考えられます。また、ここ10年ぐらいの間には40年代前半に建てられた簡易平屋建ての公営住宅がほと

んど建替えの時期を迎え、その建替え必要量も多くなっていくものと考えられます。

○小郡市での問題と課題

福岡から急行電車で約30分と近く、福岡市のベッドタウンとして人口が増えている小郡市では、市街地の利便性の高いところに木造や簡平の公営住宅が点在しており、今後、これらの老朽化した住宅を維持していくためにはコストがかかること（家賃だけで修繕費を賄うのが追いつけなくなっている。）、入居者の住宅そのものに対する不満が高まっていることなどから、どうしても建替えざるを得なくなっていると言えます。

しかし、建替え計画を進める中で次のような問題が発生しました。これはどこの市町村でも共通のことが含まれていると考えられます。

- ①現況家賃があまりにも低廉であることから、建替え後の家賃との格差が生じて、家賃負担に限界が出てくること。
- ②市街地の利便性の高いところに建てられている団地では高齢者が住んでいる割合が高く、住み替えの意志はそれほど強くないということ。
- ③市街化調整区域内に建てられている団地では、都市計画上の制約（第1種住専並の建築制限）

がかかるため、建替えても多くの住宅増が見込めないこと。

④市街地では人口が増加しているが、郊外の農村地域では過疎化している地域もみられ、一市町村内において過疎化対策としての新たな住宅の導入が求められること。

⑤公営住宅の立地が既成市街地に集中しているため、地域的なバランスがあまり良くないということ。

○多様な方法が必要な建替えマスタープラン

再生マスタープランでは、10年後の公営住宅の目標をどの辺にセットするかが計画の大きなポイントなのですが、実際に建替えを進めていくためには、建替えに対する非積極派と積極派に対応した受け皿を設けるか、福祉的な政策で家賃補助を行っていくなどの多様な方策を検討していく必要があるかと思われます。

その他に具体的な提案としては次のようなことが考えられます。

①あえて建替え住宅に住みたくない居住者に対しては、耐用年数に達していない50年代前半の公営住宅の入居停止を行い、これらの居住者への受け皿として活用するなど、他の公営住宅との連携を図っていくことが考えらる。(生活圏

が大きく変わらないストックがある場合)。

②今後、公共賃貸住宅については幅の広い層の導入を図っていくためにも、単に一般の公営住宅のみではなく、地域特別賃貸住宅や公社住宅などを含めた総合的な建替え計画を立てることが地域にとっては望ましいと考えられる。(山田龍雄)

伊万里市大川農業まつり

佐賀県の玄界灘に面する伊万里市の東側にある大川町は、人口35百人の農業地域です。

縁あって、この町の農協が主体となって取り組むルーラルアメニティ計画のお手伝いをする事になり、この町のメインイベントの一つである農業振興大会「ふれあい農業まつり」の記念講演を依頼されました。写真は糸乗所長が話をしている時の様子です。

この町には、大川梨(これからは伊万里梨のブランドに統一されるそうですが)や大川ぶどうなど、果樹の特産品がありますが、地域の若い人たちは、やはり外へ出て戻って来ない傾向があり、何とかしなければというのがルーラル



アメニティ計画に取り組む目的でもあります。

記念講演の中で、所長は「地域の定住人口を増やすことも大事だが、活力人口という見方をすれば、年間10万人の人たちが来れば、1日あたり300人が町をうろうろしたことになり、300人の人口が増えたと思えば良い。地域のにぎわいづくりからまず取り組むことが必要。」という話にうなずいた人も多かったことを付け加えておきます。(山辺真一)

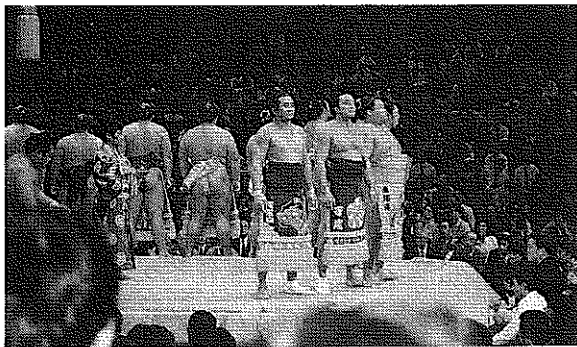
間近に見た大迫力の土俵上

—大相撲九州場所を観戦—

11月19日、それは、今のブームが起こるずっと前から相撲ファンだった私にとって、とても幸運な一日でした。一度この目で見てみたいとかねてから思っていましたが、実際に大相撲を観戦する機会がなく、今回、生まれて初めて九州場所を見ることができました。

初めて見る土俵は、テレビで見るよりもずっと小さく感じました。これは、土俵上の力士達が余りに大きいせいかもしれません。舞の海、旭道山といった小柄な力士は、他の力士と比較すると、まるで大人と子供、本当に華奢に見えるのですが、体重は100キロ程もあるというのですから、力士の大きさがわかろうというものです。

その大きな体と体とが、すぐ目の前でぶつかり合う様子を見て、そして激しい息づかいを聞いていると、その気迫にすっかり圧倒されてしまい、私は我を忘れ、甘栗を食べるのを忘れ、隣の山田さんの存在も忘れて見入っていました。こんなに集中したのは本当に久しぶりのことで



した。「あっ、若貴だ。お揃いの化粧まわし。」
「あっ、寺尾だ。やっぱりハンサム」と語尾が上がり気味。取り組みだけではなく、力士達が勢ぞろいする土俵入りを見てはまた舞い上がってしまいました。

相撲ファンとはいっても、大相撲ダイジェストばかり見ていた私は、ひとつの取り組みで何度も仕切をし、間をとって気合いをいれている様子などはじめて知ることたくさんあり、またこれでいっそう相撲が好きになりました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ最後の取り組みもおわり、「生で見なくっちゃこの感激は味わえない」と大満足で会場をあとにしました。
(富重慶子)

木製コースター「ジュピター」

—4回続けて乗った記—

私たちが今座っているのは、木星、いや木製のジェットコースター<ジュピター>である。

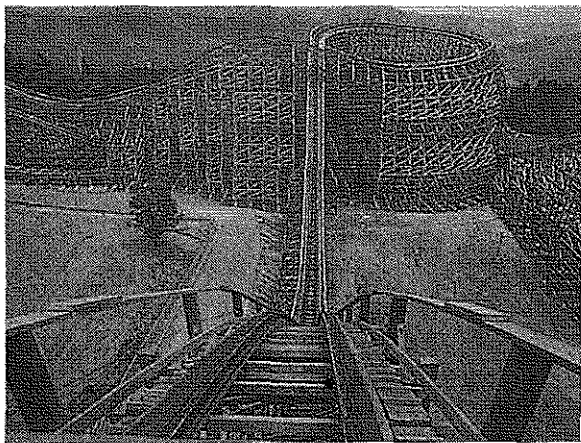
日本に初上陸したこの巨大な物体は、6万本のアメリカ松を組み合わせて出来ているそうだ。最高位なんと42m。全長1.6km。最高斜度45度。最高速度91km。これだけ聞いても恐ろしい。いや、想像もつかないであろう。これは、実際乗ってみるに限る。

時速90kmもあるというのに、安全ベルトはないのか、安全ベルトは。とさわいでいたみんな。そう、股にT定規らしき鉄パイプを挟むだけ（これだけはさすがに鉄製）。途中でガクンと緩まないようにしっかり下まで押さないで、死ぬ思いをすることになる。

頂上に昇りつめた時の、城島高原のきれいな景色もぜひ、堪能していただきたい。これから始まる、スリルの前に……。走り出したら、そりゃもう！絶叫マシーンと言われるほどですから……。日頃あんまり大声を出さない人には、とっても壮快だと思った。

大きな声を出すという事がこんなに、気持ち良いものかと実感した1日である。ホント、気持ち良い。

45度というのが、あんなに真下に見える角度だ、というのも始めて知った。(私はスキーをした事がない。)ここで、ほとんどの人は死ぬ。と思うだろう。1回目は、ここで涙ぐんだ。2回目は、おー！と感動する事ができた。3回目からは、ひゃっほー！と楽しんで乗れるようになった。



写真：「ブリーズ 9月号」(JR九州発行)から

そのほかに、2回続きのウェーブ、傾斜の激しいカーブ、頭を打ちそうな木製のトンネル。いやー、楽しみは尽きない。やはり、これは1回乗っただけでは、良さの分からない化け物である。皆さまも大分方面へお出かけのついでに、ぜひ、体験してみたいかがでしょうか。泣けますよー。

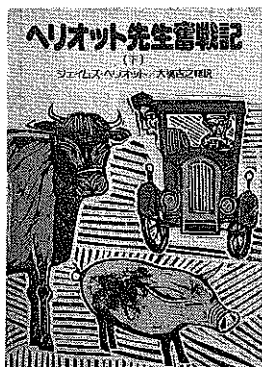
一言駄足。「さすがに私より高齢は見あたらないなあ」と言っている50代が隣にいました。(神野みつえ)



写真：「ブリーズ 9月号」(JR九州発行)から

「明日自分が滑稽な存在に変わるかもしれない、それが獣医というものだ」
(本文より)

「ヘリオット先生奮戦記」(上下)



ジェームズ・ヘリオット
大橋吉之輔 訳
(ハヤカワ文庫)

本書は一人の獣医の回想録である。1937年、イギリス・ヨークシャーの山間の農村で新米獣医ジェームズ・ヘリオットの助手としての仕事が始まる。「1937という年に獣医の資格を取ったということは失業者の列に加わるもの」と彼自身も言うように、多くの同業者が不当な待遇を受けていた時代でもあった。また当時農村での獣医の仕事といえば、多くは牛や馬の治療、出産の手助けなどである。彼は真夜中何10キロと離れた場所に駆けつけ、汚物にまみれ、また動物の手痛い仕打ちを受けつつも体力の限界

の中で悪戦苦闘し、ある時には心ない農場主の言葉に頭を悩ませる。だがこれらの苦労話も彼の優れたユーモアセンスによって、読者は明るい共感を得ることになるのである。

勿論治療に携わる話だけでなく、そこには地元の人々との交流や彼の「先生」であるファーノン先生とのやりとり、恋愛話など実に多様なドラマがコミカルに、そして温かく描かれている。登場人物は実在の人であろうが、彼らにはどこか愛嬌があり話に色を添えている。

本書の面白さは、ヘリオット先生のもつ一人の医者・研究者としての冷静かつ忍耐強い観察力と、臨床体験における生々しい現実性、またそこでの人々とのドラマとの対比が非常にウェットに富んだ文章で語られていることにある。またそれを可能にしているのは作者の卓越した観察力、そして繊細な感受性であることは言うまでもない。

なお本書の原題は、「ALL CREATURES GREAT AND SMALL (すべての生きとし生けるもの)」。読後に受けるさわやかな感動の根底に流れているものを、まさに一言で表すタイトルである。(北村茂樹)

◎むなかたフォーラム

- テーマ 21世紀に向けて、学術研究都市とまちづくりのあり方を考える。
「くらし・文化・交流」
- 基調講演 泉 真也 氏 (多摩美術大学教授)
- パネルディスカッション
コーディネーター 泉 真也 氏
パネリスト 増田伸爾 (東京工業大学助教授)、樺島義幸 (福岡県企画振興部長)
秋山晴子 (福岡教育大学教授)、松岡弘明 (㈱ゼネラルアサヒ代表取締役社長)
- 日 時 平成5年2月13日 (土) 13:00~16:30 (12:30受付)
- 会 場 宗像ユリックス・ハーモニーホール
- 主 催 宗像市
- 参加費無料 但し、整理券が必要
- 申し込み・問い合わせ 宗像市役所企画調整部企画課
TEL 0940-36-1192 FAX 0940-37-1242

◎第5回北九州学術・研究都市シンポジウム

- テーマ 「21世紀に向けた産業動向と学術・研究都市」
- 講 師 石井 威望 先生 (慶應義塾大学環境情報学部教授)
- 日 時 平成5年2月2日 (火) 14:00~15:30
- 会 場 北九州国際会議場メインホール
- 主 催 北九州市
- 参加費無料
- 申し込み・問い合わせ 北九州市建築局学術・研究都市建設準備室
TEL 093-582-2698 FAX 093-582-2694

◎〈HAN〉ヒューマン・アクティブ・ネットワーク 第8回合同賀詞交歓会

- 人際、業際、学際等さまざまな「際」を超えて、互いのネットワークを持ち寄り多層に連携させることのできる「出会いの場」。懐かしい出会い、新たな出会い、生きた情報のやりとりが毎回好評を得ています。
- 日 時 平成5年1月22日 (金) 16:00~20:00
- 場 所 エルおおさか (大阪府立労働センター)
- 会 費 10,000円 (当日)
- 詳細については、当所までご連絡ください。(㈱九州地域計画研究所 (092-731-7671))

編集後記

●新年おめでとうございます。年があらたまるたびに、ネットワークとか情報とかが強くさげられるようになっていきます。私どもは、九州内での、あるいは九州と外をつなぐネットワークの一助になればという気持ちで、所員の「手づくり」の拙ない情報を“よかネット”としてお送りすることにしました。先輩のアルバック・ニュースレターとともどもよろしくお願い致します。

よかネット NO.1 1993.1

(編集・発行) (株)九州地域計画研究所

〒810 福岡市中央区天神1-15-1 日之出ビル6F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-767

(ネットワーク会社)

(株)地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132 FAX 075-256-1764

大阪事務所

TEL 06-942-5732 FAX 06-941-7478

名古屋事務所

TEL 052-962-1224 FAX 052-962-1225

東京事務所

TEL 03-3226-9130 FAX 03-3226-9560

(株)服部メディカル研究所

TEL 03-3465-3147 FAX 03-3469-4388

(株)地域づくりネットワーク

TEL 06-357-2725 FAX 06-357-2740

(株)地域総合プランニング研究所

TEL 092-714-5297 FAX 092-714-5298